

# 春の祭り

米倉と歩く

匝瑳探訪

-71-



年度の始まりを告げる葦茅神社の神輿

最近では4

月最初の日曜日に祭礼が行われませんが、以前は4月3日が例祭日でした。4月1日から翌年3月31日までの会計年度は、明治22年4月

4月1日の日曜日、中央地区米倉で葦茅神社の祭礼が行われます。

江戸時代、米倉村の産土神は「大宮大六天」と呼ばれていました。もとは西光寺に面した字善道地あざぜんどうじにあって、1534年に現在地に移しまつられたと伝わっています。明治になり大六天から葦茅神社と改称されましたが、なぜ葦茅としたかはわかっていません。それまでは神社に隣接して成就院という寺があり、神と仏が一体となって信仰されていました。

から市町村で導入したとされます。記録がなくなっつきり言えません。当時の米倉村の合併経緯から村の人たちが先進的に4月3日を祭日にしたと考えたくなります。

米倉では鎌倉時代、1256年に「匝瑳莊米倉郷」での宗教活動が知られ、布教僧がこと鎌倉・神奈川県を往来していました。今年2月の公民館まつりに米倉集落南側の沼地を示した明治前期の地図が発表されました。それを見ると、

栗山川から沼地を通って八日

市場台地に至る水運が想像でき、これによって匝瑳台の生尾・老尾神社、宮本・熊野神社、松山神社（いずれも匝瑳地区）などに集落が形成され神社がまつられたことがうなずけます。

鎌倉時代からの善導寺、その後の等妙寺、西光寺も千葉氏の流れをくむ椎名氏などの信仰活動により寺観を整え、集落も高台から平坦地に移るなかで、葦茅神社も移転したのでしょう。

江戸時代初期に西光寺は下総の真言宗の中心寺院として末寺120か寺余りを有する大寺院となり、盆踊り歌に「米倉西光寺」と歌い込まれるほどでした。米倉山を背にした景観は往時を彷彿させるものといえます。

明治前期、めまぐるしく制度が変わるなかで単独村として小学校を建て、明治の町村合併後も分校として維持し、戦後の昭和22年には米倉が新制中学校建設候補地とされたこともありました。

米倉・葦茅神社祭礼の神輿巡行は、新年度の始まりを告げるものといえましょう。

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080